



# さいたま市民ウクライナ友好協会 ウクライナ大使館を表敬訪問

## ■埼玉県で初めてのウクライナ友好協会設立報告

埼玉県初のウクライナ友好民間団体である「さいたま市民ウクライナ友好協会」(さいたま市民ネットNPO国際協力の活動分野、さいたま観光国際協会加盟、SDGs16平和と公正をすべての人に)の設立を記念して、9月30日、東京都港区西麻布にある「在日本ウクライナ大使館」を同友好協会代表が設立報告の表敬訪問をしました。

表敬者=佐々木謙 会長(作詞家)、小林保二 副会長(作・編曲家)、細沼初美 副会長(声楽家)、大川秀史 相談役(弁護士)、丸川國俊 監査役(元埼玉県警察 警察署長)、\*本紙編集局長 水野臣次。

## ■ロシアの侵略に対して不退転の決意で反撃!

大使館ではセメニューク・オレクサンドル公使参事官が同友好協会を迎え入れ、ユリヤ・ザモルスカ二等書記官の通訳で、和やかな中にも、戦時下にあるウクライナ大使館の、ロシアによる侵略に対して不退転の決意で臨む公使の意気込みが感じられました。

## ■ウクライナと日本は対口共闘共戦で

会談では、ロシアによって「北方領土」が不当占領されている日本も、ウクライナと同じ立場であるとの共通認識で、ウクライナ・日本両国民は共闘共戦でロシアに対峙していこうとの意見で一致しました。

## ■ウクライナ応援歌「ここに幸あれ」を贈呈

同友好協会は、独自に制作したウクライナ応援歌「ここに幸あれ」を贈呈。席上、セメニューク・オレクサンドル公使参事官閣下に「補作詞」をしていただき、同応援歌は名実ともに「日本・ウクライナ共作」による世界初の楽曲となりました。

## ■公民学の協働でウクライナ避難民を全面支援

同友好協会では今後、埼玉県とさいたま市各地で「ウクライナ展示会」を開催、市民レベルでウクライナ応援の輪を広げるとのこと。

また、埼玉県・さいたま市に避難在住するウクライナ国民を生活・教育・医療・法律はじめ、あらゆる面での支援を、行政・民間・学校による「公民学の協働」で推進する方針を示しました。

ウクライナ人を父親にもつ「大鵬関」の写真が掲げられている公式応接室で友好回贈の記念写真



セメニューク・オレクサンドル公使参事官と佐々木謙友好協会会長



先に訪問していた小泉進次郎元環境大臣とエールを交換

ウクライナ応援歌「ここに幸あれ」  
こちらからご視聴ください



## 進む議会設備改革

### 本紙提案のnet議会中継改善が実現!

本紙昨年9月号で「これでいいのか?! インターネット議会中継」として、旧式の本市議会net中継改善の提言後、1年経った今議会より、中継画面サイズが16:9に変更、画質も鮮明に改善されました。



## 今議会より会議システム再構築デジタル化

1	議場内中継用カメラ
2	本会議場内マイク (議員席・執行部席・演壇・質問席・議長席)
3	プロジェクター設備
4	場内音響機器
5	カメラ・マイクの制御システム
6	インターネット議会中継の画質が向上
7	中継映像画面の比率が4:3から16:9に変更

県民公論社は、さいたま市と共に、市民満足度の向上とSDGsの達成に向けて取り組む「CS・SDGsパートナーズ共同宣言」を締結。

本紙はSDGs推進の環境適正印刷方式で作成されています。



市民と市政のかけはし

# KenminKoron

HALLOWEENロゴ

県民公論 第1086号

F330-0073 浦和区元町1-6-12-101  
TEL048-762-7515 FAX048-762-7623

kenminkoron@sea.plala.or.jp  
さいたま市地方記者クラブ(市役所2階)

清水勇人市長あいさつ

令和4年さいたま市議会9月定例会

# 人口増加率連続全国第1位!

## ■感染症対策に全庁を挙げて対応

初めに、新型コロナウイルス感染症につきましては、今般の感染拡大は、オミクロン株のBA.5を主流とする、いわゆる第7波と呼ばれるもので、本市においては、7月29日に、2,610人の感染者が確認されるなど、第6波をはるかに上回る過去最大の感染拡大となり、医療機関、保健所等の市内の保健・医療提供体制は、大変厳しい状況となっております。

このため、本市では、人材派遣による保健所の人員体制の強化や、自宅療養者への食料品配送体制の強化を行うなど、各種体制の強化を進め、感染拡大期においては、感染状況に応じ動員職員等を増員し、感染症対策業務に従事する人員体制を迅速に強化するなど、全庁を挙げて対応しております。

## ■ワクチン接種の環境整備

また、新型コロナウイルスの感染拡大が依然として続く状況においては、市民の皆様が早期にワクチンを接種できる環境づくりが大変重要です。なかでも重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患をお持ちの方が身近なかかりつけ医等で接種を受けられるよう、市内約430か所の医療機関で接種を実施するとともに、利用しやすい駅前や商業施設等にも会場を開設し、接種を進めてまいりました。さらに、働く世代や若い世代の多くの方に夏休み期間を利用して接種を受けていただけるよう、8月の予約枠を大幅に拡大するなど、環境を整備してきたところであります。

引き続き、気を緩めることなく、新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組んでまいります。

## ■水災害対策の推進

次に、今夏は台風8号が関東を縦断するなど、大雨や台風による被害が全国的に発生しております。こうした水災害リスクの増大に備えるため、本市では、「流域治水」の趣旨を踏まえ、自然環境が有する様々な機能を活用したグリーンインフラ\*1の取組や、ハード・ソフト併せた水災害対策を積極的に推進してまいります。

これらの取組を推進するために、7月7日には、九都県市を代表して、「流域治水に関連する事業への財政支援について」、国土交通省に要望しました。今後も、市民の命と暮らしを守るため、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、災害対策についても全力で取り組んでまいります。

## ■人口増加数連続日本一位!

さて、令和4年度さいたま市民意識調査の中間報告では、今の地域が住みやすいと思う人87.2%、住み続けたいと思う人87.1%で、ともに調査開始以降最高値となりました。

また、8月9日に総務省から発表された「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」によると、令和3年中のさいたま市の人口増加数は、昨年に引き続き全国1位となりました。

こうした結果は、議員各位を始め、市民の皆様、市内企業・団体の皆様の御協力のたまものであり、改めて感謝を申し上げます。引き続き、皆様とともに誰もが住みやすい、住み続けたいと実感していただけるようまちづくりに取り組んでまいります。

## ■第12回さいたまシティカップ

次に、11月16日には、令和元年度以来となる「第12回さいたまシティカップ」を、埼玉スタジアム2002にて開催いたします。今回は浦和レッズとドイツ・ブンデスリーガの「アイントラハト・フランクフルト」が対戦することとなりました。「アイントラハト・フランクフルト」は2021-2022シーズンのUEFAヨーロッパリーグを制した欧州の強豪クラブです。元浦和レッズの長谷部誠選手、日本代表の鎌田大地選手が所属しており、さいたま市民のみならず日本のサッカーファンにとっても注目の一戦となることと思います。市民の皆様には、スタジアムへ足を運んで、世界一流のプレーを間近で御覧いただきたいと思っております。

## ■マイナンバーカードの普及

最後に、本市では、「さいたまデジタルハ策\*3」を定め、マイナンバーカードを活用しつつ、行政手続きのオンライン化等を進め、市民の利便性を向上させることを目指しております。

9月末までにマイナンバーカードを御申請いただきますと最大2万円相当のマイナポイントを受け取ることができます。1人でも多くの方に取得していただきたいと考えていますので、是非、この機会にご申請いただきたいと思っております。

今議会提出議案(全29件)

- ・予算議案
  - 一般会計補正予算2件
  - 特別会計補正予算3件
  - 水道事業会計補正予算1件
  - 下水道事業会計補正予算1件
- ・決算議案
  - 「令和3年度さいたま市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について」など4件
- ・条例議案6件、一般議案8件、
- ・道路議案2件、人事議案2件

(令和4年9月7日 市議会本会議場)



清水勇人 市長



県民公論の  
マスコット  
コロちゃん  
が解説します。

\*1.「グリーンインフラ」= インフラ(社会基盤)にグリーン(緑)、自然の持つ機能を取り入れ活用する、という取り組みのこと。

例えば、洪水を防ぐ「遊水地」・ヒートアイランド対策の「屋上緑化」・地域の「緑地再生」・豪雨による急激な雨水の流出による水害を防止する「雨庭」・雨水を浸透させる機能を持つ「透水性舗装」などはグリーンインフラのひとつ。

\*2.「さいたまデジタルハ策」=

- ①さいたま市のすべての手続きをデジタルへ。
- ②デジタルで支える新たなさいたま市民生活へ。
- ③市民のデジタルへの道を拓くさいたま市へ。
- ④市民の信頼の下、データが変えていくさいたま市へ。
- ⑤災害にも強いデジタルを安心して使えるさいたま市へ
- ⑥様々な人と、ともにデジタルを進めるさいたま市へ。
- ⑦デジタルで市民や世界とつながるさいたま市へ。
- ⑧デジタル時代の新たなさいたま市役所へ。







### 1.さいたま国際芸術祭2023

**Q【代表質問・三神尊志】** さいたま国際芸術祭の具体的な内容について、市民参画、ラーニングプログラム、広報、事業検証などしっかりと行う必要があると考えるが見解は。

**A【副市長】** 「市民プロジェクト」の事業規模を拡大する。具体的には、市民プロジェクト・キュレーターを開催実施計画当初から採用。市内の小・中学校等にアーティストを派遣するなど教育委員会と連携。市民サポーターや学生などからなる開催運営サポーターを募集。広報については、市民の誇りとなるようなイメージ向上を図る。広くアンケートを実施して事業検証する。 [さいたま国際芸術祭→](#)



### 3.介護人材の確保

**Q【代表質問・小森谷優】** 介護職員の住居借り上げに対する補助制度導入に向けての、現在の検討状況を伺う。

**A【副市長】** 現在、国に補助制度はない。独自に実施している自治体では、入居条件として地域活動に参加することや、災害時には福祉避難所で活動することを条件とするなど、家賃の補助だけではない内容が含まれている。本年5月に、九都県市首脳会議で、都市部での介護職員に対する共通課題として、居住費負担軽減に向けた支援制度を、創設するよう国へ要望した。引き続き、介護人材を確保していくための検討を進める。



### 5.浦和駒場スタジアム改修

**Q【代表質問・青羽健仁】** 浦和駒場スタジアムの、大規模改修等について、スピード感を持って一気に取り組んでもらいたい

**A【副市長】** 浦和駒場スタジアムの全体改修は、今年度、施設の健全度調査を実施したうえで、来年度、施設の長寿命化に関する方針やスケジュールを検討する。当スタジアムは検討中の「(仮称)浦和駅周辺まちづくりビジョン」にも貴重な地域資源として位置付ける予定で、女子サッカーの聖地としてふさわしい施設とは何か、将来に向けたビジョンを描き、浦和レッズを始めとした関係団体と調整を図りながら、スピード感を持って、検討を進める。



### 1.馬宮住宅の安全対策

**Q【一般質問・出雲圭子】** 荒川の水災害を踏まえたまちづくりについて、馬宮住宅(西区飯田新田)の安全対策や避難対策はどのように検討しているか。

市営住宅募集に関連してハザードに関する情報を提供すべき。**A【建設局長】** 建設を予定している馬宮住宅については、1階の床の高さを通常より高く設定し、全体的に床の高さを上げる計画としている。また、急な増水により逃げ遅れた場合、緊急的に垂直避難できるよう、屋上に避難できる計画としている。ハザードに関する情報の提供方法や内容については、今後、他都市の先進事例を調査し、検討する。



### 2.与野中央公園施設

**Q【代表質問・中島隆一】** 与野中央公園総合スポーツ施設の具体的な事業内容プランについて伺う。

**A【副市長】** 公園内に誘致・整備を予定している「次世代型スポーツ施設」は、収容人員5,000人程度のメインアリーナと地域交流や地域活性化推進するサブアリーナが一体となった施設を想定している。今後、年度内にはサウンディング調査(民間事業者との意見交換等を通し、事業に対して様々なアイデアや意見を把握する調査)の結果に基づき、次年度以降の事業者公募に向けて取り組みを進める。 [次世代型スポーツ施設の方向性→](#)



### 4.緑区の体育館建設

**Q【代表質問・神坂達成】** 新設体育館は、緑区内の広い範囲で建設地を検討すべき。

**A【副市長】** 整備地区の選定は、本市の将来都市構造の考え方を踏まえ、美園地区を含む3副都心地区に新規整備を行うとした方針に則り、まずは、美園地区内での建設地の選定を進めてまいりたいと考える。**Q** 副都心だから建設するとは画一的すぎる。例えば大崎地区に建設すれば、スポーツを行った後にヘルシーランドを利用する人もいだろう。もっとフレキシブル(柔軟)に考えるべき。**A** 美園地区に建設地を見い出せない場合にあっては、検討範囲の拡大を視野に入れる必要があると考える。



### 6.給食費無償化

**Q【代表質問・竹腰 連】** 市民の暮らしを支える支援について、給食費の無償化をすべき。

**A【教育長】** 本市では、経済的な理由で学校給食費の支払いが困難なご家庭には、就学援助制度の適用により、市が全額負担している。また、学校給食にかかる費用のうち、施設・設備に係る費用や栄養教諭、学校栄養職員、調理の人員費、高熱水道費等についても、市が全額負担している。今後も保護者の皆様には食材の購入費のみのご負担をいただき、各校の特色を生かした安全でおいしい学校給食を提供してまいりたいと考えている。 [就学援助制度→](#)



### 2.タケカワユキヒデ氏

**Q【一般質問・吉田一郎】** 市長はタケカワユキヒデ氏(本市出身、ゴダイゴボーカル、市の歌『希望(ゆめ)のまち』補作詞)を教育委員に任命するにあたり、同氏が市内の企業の広告塔になっていることを知っていたか。

教育委員がパチンコ屋、酒等の未成年に販売が禁じられているもの、また、教育産業の広告塔になることの見解は。**A【副教育長】** 広告に出演されていることについては、市長も認識されていると聞いている。教育委員の広告出演に関し、特に規定はなく、問題ないと認識している。 [教育委員に任命\(テレ玉\)→](#)



令和4年9月さいたま市議会定例会代表・一般質問特集

注目質問・答弁抜粋・要約(文責 本紙)

\*詳しくはQRコードでご覧いただけます



### 3.加田屋川の整備

**Q【一般質問・松村敏夫】** 加田屋川の現状は荒れ放題で景観上・農業振興上問題がある。管理・清掃の計画で保守することを求める。

**A【建設局長】** 加田屋川は、見沼区の東宮下小学校付近を起点として芝川に合流する延長約4.8kmの準用河川であり、県道新方須賀さいたま線の中野橋から芝川に合流するまでの約2kmの埼玉県施工区間が未整備となっている。埼玉県に対し、加田屋川を含む芝川流域についての未改修区間の早期整備を「埼玉県・さいたま市事業調整協議会」で要望する。県が整備に着手するまでの間は、本市において定期的にパトロールを実施し、適正な管理に努める。



### 5.火葬場・斎場予約

**Q【一般質問・斉藤健一】** 火葬場・斎場総合予約システムを、自動応答電話及びFAX予約からWEB予約システムに変更すべき。また、予約時間の変更を要望する。

**A【保健福祉局長】** さいたま市火葬場・斎場総合予約システムについて、現在は新システムの調達に向けた作業を行っている。調達のための仕様書においては、WEBシステムとするよう明記しているので、新システムの運用開始後は、WEB上で、空き状況の確認や予約を行うことできる。また、予約可能な期間は、現行システムの改修により早急に対応し、現在6日間である予約期間を、14日間に延長する。



### 7.大宮北高校の環境改善

**Q【一般質問・伊藤仕】** 大宮北高校の教育環境3点の改善要望について考えを伺う。

**A【教育長】** 1点目「防球ネットの高さの要望」=既設の支柱を利用して高くする方法や新たに支柱を設置する方法など、適切な施工方法を調査し、改善に向けて検討する。2点目「大雨時の体育館出入口の排水改修要望」=体育館が避難所となっていることから、市民の安全を確保するため、改善が必要がある。まずは、原因を調査し、対応方法を検討する。3点目「電子顕微鏡」=早急に点検を行い、故障の内容を把握したうえで対応する。



### 9.ラオス国との国際協力

**Q【一般質問・川崎照正】** 本市とラオス人民民主共和国との覚書に基づく、国際協力推進の取組状況について、また、30周年を迎えた今後の事業展開について見解を伺う。

**A【水道事業管理者】** 覚書に基づく取組状況としては、技術支援に加え、資金調達や事業認可など、制度的な改善を働きかける「技術協力プロジェクト」と、それを支える「草の根技術協力事業」との相乗効果による成果向上を図ってきた。今後、令和5年12月までに新たな覚書を締結し、引き続き、技術支援と友好発展の増進に向けた事業の充実を図る。 [30周年記念ラオス大使館表敬記事→](#)



### 4.遠隔分身ロボット

**Q【一般質問・小柳嘉文】** 遠隔分身ロボットの活用により、障がい者が就労できるようになり、長期入院生徒のために役立っている。市として活用の場を検討してはどうか。

**A【保健福祉局長】** ご提案の、遠隔分身ロボット「オリヒメ」活用のカフェが、令和3年東京都内にオープンしたことは伺っている。遠隔分身ロボットの活用により、重い障がいがあっても社会参加や就労・教育の機会創出が図られる。本市としては、企業や自治体で行われている取り組みの効果を注視し、遠隔分身ロボットの活用について検討する。『分身ロボットカフェ DAWN ver.β』→



### 6.着せ替え人形は恋をする

**Q【一般質問・松本翔】** アニメの活用について「その着せ替え人形は恋をする」とのコラボレーションはどこまで進んだか。

**A【経済局長】** この作品では、岩槻を中心として、本市がアニメの舞台となっているので、コラボレーションが実現すれば、岩槻の人形を広くPRできる良い機会と考える。今年度、東京駅周辺で、岩槻の人形のプロモーションイベントを開催する予定なので、このアニメのご協力がいただけるよう調整中。また、このアニメにちなんだ装飾など、市内でのコラボレーションについても内容の検討と調整を行っている。「その着せ替え人形は恋をする」→



### 8.中浦和駅北口まちづくり

**Q【一般質問・島崎豊】** JR中浦和駅北側に、駅周辺の環境空間等の未利用地を活用して道路を整備できないか。

**A【都市局長】** 中浦和駅北口周辺において、「中浦和駅北口周辺改善まちづくり協議会」が、定期的に開催している勉強会において、駅周辺の道路を含む安全対策の検討や、まちづくりの事例視察などを行っているとのこと。まちづくり協議会からは市に対して、まちづくりの検討の流れや地域の合意形成に向け相談を受けており、専門家を派遣するなどの支援をしている。本市としては、協議会の活動において、道路計画を含めた地域別まちづくり構想が早急に作成できるよう支援する。



### 10.浦和ナンバー

**Q【一般質問・川村準】** 国交相がご当地ナンバーの申請を行っているが、浦和ナンバーを申請すべきと考える。

国は4回目の募集をかけており、要件を緩和している。要望があるからこそ要件が緩和することもあるのでは。通るかどうかは気にせず申請すべきと考えるが、市の見解は。**A【本部長】** 「浦和」ナンバー導入に向けた現行制度の緩和に向けて国土交通省に働きかけることは、市内を旧市エリアで分け隔てることになり、これまで本市が進めてきた取組の方向性と逆行するものであることから、政策面としてそのような働きかけは考えていない。